

# なんたん

No. **50**

農業委員会だより

令和 5 年 2 月号

「どんど祭」で

無病息災を祈願

農業委員会のうごき	2~3
京力農場プラン(人・農地プラン)から地域計画へ	4~5
特集	6
まちかど通信	7
地域農業を支える 他	8

発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

■電話 0771-68-0067 ■E-mail [co-nougyo@city.nantan.lg.jp](mailto:co-nougyo@city.nantan.lg.jp)

■FAX 0771-63-0654 ■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/gove/145/index.html>



# 農業委員会のうごき

## 令和4年度 管外視察研修「岐阜県下呂市を視察」

### 農業委員会の取組み

令和4年11月17日、18日に管外視察研修へ行きました。

1日目は、下呂市農業委員会の利用状況調査と新規就農者を増やす取り組みについて研修しました。

下呂市農業委員会では、全国に先駆けて衛星写真を活用した農地判定システムを導入されました。農地の状況についてタブレット端末で確認ができ、農地の利用状況をその場で入力する事で調査時間が大幅に短縮できるとのことでした。

新規就農者を増やすための取組としては、平成23年度より積極的に受け入れを進められ、現在44名の方が就農され、そのうち36名が特産のトマト栽培をされています。

また、国からの補助金を本来なら農業のために使用するのですが、生活費がかかり、補助金を生活費に充ててしまう現状を改善するために研修生専用住宅も用意され、家賃は光熱水費・Wi-Fi使用料・駐車場料金込みで3050円とされています。

### 金山東地区の取組み

2日目のはじめに「一般社団法人ひがし村の役割RMOへのチャレンジについて」研修しました。

(一社)ひがし村は平成29年に設立され金山東地区や地域運営組織の中で、農地の利用調整・農業参入による活動資金の確保・新規就農者支援を担われています。

続いて、新規就農者の方2名と意見交換を行いました。就農して初めてトマト栽培をされたそうですが、1年目で出荷されたとのこと。農業に専念できる環境と指導してくださる先輩農家さんの支援体制に驚きました。

また、若手農業者が増えている中で、出会いの場所を支援するため、お見合いパーティーなども開催されます。地元農家さんが「若い人のためなら」と、無料で米・野菜・肉などの食材を提供されました。地元シェフの指導のもと、全員で調理され親睦を深めながら食事されたそうです。

### 視察を終えて

今回の管外視察研修では、農業委員会の事務軽減の取り組みや新規就農者への支援策などについて研鑽を深められ有意義な2日間でした。

※RMO(地域運営組織)とは、地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。

(取材：川勝芳明 委員)



豊かな老後生活のために!!  
加入しませんか?

## のうねん 農業者年金

国民年金に上乗せする公的な年金制度です

- 1. 農業者なら広く加入できる
- 2. 積立方式・確定拠出型で安定した年金財政
- 3. 保険料の国庫補助
- 4. 保険料は2万円～6万7千円まで千円単位で選択可能
- 5. 税制面で大きな優遇
- 6. 80歳までの保証がついた終身年金

詳しくは農業委員会事務局まで (連絡先：0771-68-0067)

**農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書**

令和4年10月14日に「農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を西村市長に提出しました。

本年度は、有害鳥獣による深刻な被害への対応と、新型コロナウイルス感染症、ロシアによるウクライナ侵攻の影響に伴う生産資材等高騰対策、米価下落対策を国、府に強く要請するとともに市にはきめ細かな対応を求めました。



▶左から、西村市長、上田会長、野中職務代理

**意見書の概要**

1. 生産資材等高騰対策について

生産資材の高騰が影響し農地が荒廃することに繋がらないよう、資材高騰対策においては、国、府の施策と併せ、経営規模に関わらず、きめ細かな対策を講じること

2. 米価下落対策について

農業者への所得支援対策及び米価下落補填対策などを国、府に対して強く要請するとともに、市独自の支援策を図ること

3. 有害鳥獣対策について

各種補助事業の助成拡大や集積農地への要件緩和といった支援の拡充を図るとともに、ドローンを用いた捕獲など個体数を大幅に減少させるよう計画的かつ効率的な駆除を進め、小動物対策も講じること



■意見書の全文ならびに回答はHPで公開しています。

URL : [https://www.city.nantan.kyoto.jp/www/gove/145/003/000/index\\_45354.html](https://www.city.nantan.kyoto.jp/www/gove/145/003/000/index_45354.html)

**委員と子ども、笑顔の共同作業**

令和4年10月14日、美山小学校2年生の子どもたちを迎えてサツマイモの収穫体験を行いました。

地元の委員が日頃から草刈りなどの管理を行

い、芋掘り当日にはツルの整理をした畑に、わくわくした様子の子どもたちが集まりました。

マルチはがしの作業も手際よくして、いよいよ芋掘りです。



6月に自分たちで植えた芋づるの根元に手を入れ、力を込めて掘りすめると、大きなイモや形の変わったイモが出てきて、そのたびに歓声があがりました。

たくさん収穫したイモを一カ所に集める作業まで子どもたちは終始笑顔で元気よく作業しました。

(取材：三嶋正子委員)



# 京力農場プラン (人・農地プラン) から地域計画へ

## 「人・農地プラン」とは

地域の農業者や関係者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体や地域の農業の将来のあり方などを明確にして、市町村が公表する計画を「京力農場プラン」と呼びます。

### これまでの主な協議内容

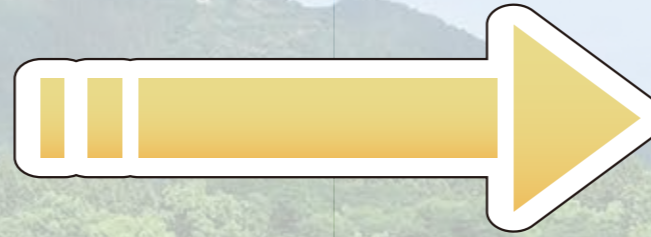
#### プランの実質化

- 農業の将来のあり方
- 農地中間管理機構の活用方針
- 基盤整備事業の取組方針
- 多様な経営体の育成・確保の取組方針

### 今後必要となる協議内容

#### 地域計画

- 5年後に目指す地域の農地利用(目標地図)
- 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標
- 農用地の集積・集約化の取組
- 農業用施設の整備に関する取組



## 「地域計画」とは

令和4年5月に、農業経営基盤強化促進法等が改正されました。これまで「京力農場プラン」の取組として行ってきた地域の話し合いが、法律に基づく取組になります。名称は「地域計画」と改められ、地域の農業を持続させていくための方針と、併せて、「目標地図」という、農地ひと筆ごとの、将来の耕作者の計画を立てていきます。

1

### 地域の農地の状況についての確認

- 多様な担い手が耕作する農地
  - ▶ 「農用地利用集積等促進計画」による権利設定を促進
- 今後耕作ができなくなるおそれがある農地
  - ▶ 今後の利用方針について地域で話し合う



2

### 農地の所有者、耕作者へ今後の農地利用の意向の確認

地域ごとの会議や所有者、耕作者との話し合いの中で地域計画を定める農地を検討

- 耕作者の利用の意向
  - 今後どのように営農していくか等
- 所有者の利用の意向
  - 後継者の有無や貸付希望等



3

### 意向をもとに農地利用の計画を地図化

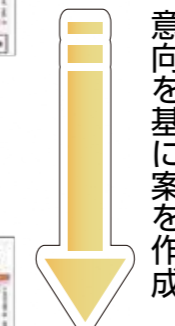
どの農地を今後誰が耕作するのか、貸付を希望する農地はあるか意向をもとに集落の農地の状況を地図に落とし込み可視化します。

▶ 現状、どこを誰が耕作しているのが明確にします。

現在の耕作状況



今後の集積予定 (目標地図)

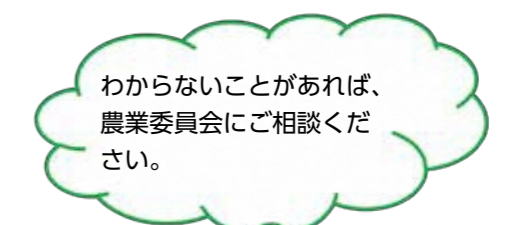


4

### 地域計画に基づき、地域での農地中間管理事業の利用を促進

貸付等の意向があり、計画で定めた農地について、農地中間管理事業(※1)を利用した権利設定が行われるよう所有者、耕作者に対して委員が働きかけを行っていきます。

- 農地中間管理事業を利用するメリット
  - ・ 農地中間管理機構(公的機関)が間に入ることによって、安心して農地の貸し借りをおこなうことができます。
  - ・ 地域内のまとまった農地を機構に貸し付け、担い手などへの集積・集約を図ることで、補助金の交付を受けられる場合があります。



(※1) 農地中間管理機構が農地所有者と担い手との間に介在し、農地の借受・貸付を促進する事業です。

# 特集

## 農地の未来を守るために



令和4年11月9日、美山町鶴ヶ岡地区における農業の将来の在り方などについて、話し合いを行いました。当日は鶴ヶ岡振興会の役員さんや行政、農業会議、農業委員の各メンバーの他、地区の農事組合長さん方を加えた20人程度が集まりました。

地元間の結びつきが強い鶴ヶ岡地区ですが、「集落全域で農業の将来像を描く！」というビジョン作成は責任感も重く、また農業離れや過疎化などの根強い問題も数多くあり

ます。なかなか一朝一夕では進まないというのは、皆の共通認識だったかもしれない。当地区の農業委員であり、南丹市農業委員会会長でもある上田純二委員より「今回は第一歩。話し合うことが大事です。道は遠いけれど徐々に進めていきましょう。」とのあいさつがありました。

今後、この様な話し合いは南丹市内全域で、開く必要があります。

「自分の代で農業はおしま

い」や「人の農地まで面倒みれない」ではなく、少しでも希望の持てる農村風景を作れるよう、我々農業委員会としても活動を続けていきたいと思えます。

「私も農村、農業を守りたい」と思った方がおられましたら、どうぞ遠慮なく近くの農業委員、農地利用最適化推進員にお声がけ下さい。

(取材：井上雅晶 委員)

### お詫びと訂正

前号 (No.49) 5ページで紹介しました「ヒヨドリ商店」におきまして、営業時間と営業日の表記に誤りがありました。正しくは、営業時間11:30~17:00、営業日火・木・土 (第4土曜日は休み) です。

関係者のみなさまにはご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。



### 全国農業新聞を購読しませんか。

農業経営と暮らしに役立つ週刊の農業総合専門誌です。農業者の視点で、さまざまな情報をお届けします。  
発行日/金曜日発行 (月4回) 発行所/全国農業会議所  
購読料/月額700円 (税込)

購読の申込は農業委員会事務局まで 電話 0771-68-0067

地元で活躍されている方や農業に関する取り組み、また、日々の生活に密着したまち情報をお伝えします！



## Grape garden (園部町美園町)

### NPO法人「ぶどうの木」を訪ねて



▲施設利用者のハーブ育成風景

発達障害のある子どもたちが個々の障害特性に応じ継続した支援を受け、地域で普通に生き活きと暮らせるまちづくりを目指し、「NPO法人発達障害を考える会ぶどうの木」が、平成20年にスタートしました。事業の一つに、利用者がやりがいを持って楽しく主体的に働ける場、利用者の思いに寄り添える場として就労継続支援B型事業（Grape garden）があります。また20アールの圃場で農作物を栽培、収穫し、加工品の販売を行っています。



▲小麦栽培田圃風景

理事長の西田香代子さんは「子どもと家族の笑顔のために、私たちぶどうの木も、子どもたちとともに次のステージに進んでいきたい。」と熱く語られています。（取材：杉森義弥 委員）

京都府の農福連携を活用し、収穫したハーブや野菜を提供する「カフェ&マルシェSeedS」もその一つです。

## ムラカミブツサン (八木町八木)

### オリジナルロゴで地域を盛り上げる



▲写真中央「お米袋バック」

どんなことでも楽しもうと心掛けておられるムラカミブツサンの村上裕紀さん。南丹市を少しでも盛り上げようと、南丹市の独自ブランドを立ち上げられました。八木の大堰橋をモチーフにオリジナルロゴを自らデザインし、Tシャツ、パーカーなどを作成、販売しておられます。（主にInstagram・Base）今年からは、南丹市特産のお米（コシヒカリ・キヌヒカリ・ヒノヒカリ・きぬむすめ）を盛り上げようと、オリジナル「お米袋バッグ」に詰めて販売を始めた。



▲QRコード



オリジナル「お米袋バッグ」は、2kg用と5kg用が用意されています。取材に訪れた際、オリジナル「お米袋バッグ」を見た私は、「エコバッグにも使えますね」と言いましたが、村上さんは、「いやいや、エコバッグで使ってもらうよりも、お米を入れておいてくださいよ。お米袋バッグに入れてダイニングなどに置いておくとオシャレかなあ(笑)。」と言われました。「毎日食べるお米にオシャレであってほしい」との考え方に共感しました。（取材：波部尚徳 委員）

- 営業時間：ネット販売
- 定休日：不定休
- 電話番号：090-3058-3915
- 住所：南丹市八木町八木鹿草160-13

# 地域農業を支える あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動する  
団体・個人を紹介します。

## ふるや 古屋 よしみ 義美さん (美山町<sup>ひしたに</sup> 肱谷)



先人たちが切り開いた水源を大切に農地を守る

古屋さんは長年勤めた福祉施設を定年退職し、その後、農業に専念されています。

農業、化学肥料不使用の田やハウスでの野菜栽培を含め、作付け面積は約85アールと山あいの小さな集落では大規模です。

肱谷地区では獣害、特にイノシシの出没がひどく、いくら電気柵で防御しても狙われた田は毎夜荒らされます。また費用に対して収入が低いことで労働意欲を削られがちな現状の中で

も、持ち前のポジティブ志向で取り組まれている姿には感心させられます。

またここでも多分に漏れず高齢化が進み、田を作れない家庭も出始めてきました。古屋さんも若くはありませんが、圃場を荒らしてはならないという思いから耕作の出来ない親戚の田の保全にも余念がありません。

都会で生活する子どもさん家族も田植えや稲刈りには帰省し、今年などは息子さんの奥さんがコンバイン

を初操縦する姿が見られました。「彼女が自ら進んで手伝ってくれるのが有難い。次はトラクターを教えたいな」と古屋さん。こうした家族ぐるみで取り組まれている姿が、微笑ましく、また頼もしく感じます。

「昔、この村は荒れた畑が多く、水田は少なかったらしい。そんな中、村の遥か奥の深谷から難工事の末水路を引いた先人がいた。そのお陰で畑が立派な水田になったと聞いている。取り巻く環境は厳しいが、先祖から代々受け継がれてきた農地はこれからも守っていかないといけない。自分も健康な限り頑張る」と、古屋さんは力強く語ってくださいました。

(取材：藤原忠司 委員)

### 編集後記

園部町川辺振興会の取り組みの一つとして、正月の注連飾りや古いお札を広いグラウンドに持ち寄り、大きな樽で盛大に燃やして祝う「とんど祭」を始めて、今年で8回目になります。すっかり地域の行事として定着してきたようで、ここで初めて顔を合わせる人も多く、あちこちで新年の挨拶を交わす姿が見受けられました。(内藤彰 委員)

### 地域の食と農業の情報紙『なんたん』

自慢の農作物・地域の積極的な取り組み・地元野菜の食べられるお店など、すてきな情報をお待ちしております。  
農業委員会事務局 電話：0771-68-0067

- |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |       |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|
| 三崎 | 藤倉 | 梅内 | 前井 | 波橋 | 小川 | 内藤 | 内藤 | 辻尾 | 杉田 | 川谷 | ◆     |
| 正子 | 義裕 | 利雅 | 尚治 | 尚治 | 健一 | 政博 | 義延 | 榮治 | 義弥 | 芳明 | 広報委員会 |